

乳腺外科、病理室

研究課題名

遠隔術中迅速病理診断の導入初期における正診率と検査時間

研究目的

乳がんの治療では、手術は抗がん剤治療や放射線治療と同様、重要な治療法の一つです。また、手術は、診断や病気の進行度を知る上でも欠かせません。例えば、最初に転移しやすい脇のリンパ節(センチネルリンパ節)を摘出して、手術中に病理医が病理診断を行う(「術中迅速診断」と言います)ことがあります。これは病気の進行度を知るのに有用です。

一方で、病理医は大変不足しており、他の医療機関に勤務する病理医に通信回線で画像を送り、病理診断を行うことが可能となってきました(「遠隔術中迅速病理診断」といいます)。当院でも、遠隔術中病理診断を導入しております。

この研究では、遠隔術中病理診断の問題点や対策を明らかにするために、遠隔術中病理診断にかかる検査時間や正確性を調査・解析します。

研究期間

2021年10月25日から2023年3月31日

利用する試料・情報

2019年9月から2021年6月の間に、当院乳腺外科で乳がん手術を行った患者さんで、センチネルリンパ節生検が実施され、遠隔術中迅速病理診断が行われた患者さんを対象とします。

ご年齢、性別などの基本属性、診断病名、既往歴や治療経過(血液検査や画像検査も含みます)について、カルテ(診療録)の記録をもとに情報収集します。

なお、個人が特定されないよう個人情報保護に配慮しながら、匿名化された研究用データを取り扱います。また、学会・学術誌等での発表に際しても、個人が特定されないよう十分に留意いたします。

試料・情報を利用する者の範囲

研究責任者: 乳腺外科 尾崎章彦

当院の乳腺外科、病理室のスタッフ

もし、この研究活動にご自身の診療記録を利用されたくない場合は、下記の問い合わせ先までお知らせください。この場合であっても診療上、不利になることは一切ありません。

連絡先

ときわ会常磐病院 総務課

〒972-8322

福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台 57 番地

TEL:0246-81-5522 FAX:0246-81-5577